



あのときの常呂・写真館

VOL 80

(1969年)

昭和40年4月12日

常呂川汚染被害補償要求貫徹漁民大会

▶昭和39年7月7日の常呂川汚染防止対策漁民大会以降の常呂川汚染の問題は、「広報ところ」と『常呂町百年史』『常呂漁業協同組合四十年誌』など、3つの資料で触れているので、これらの資料を組み合わせで紹介します。

…昨年7月、常呂川汚濁防止のための漁民大会を開催、汚染防止の決議文を手渡すとともに、今までの汚染による被害は甚大なものと、北見市を始め北見パルプ、芝浦製糖、合理化澱粉工場に対し総額33億2千8百万円の損害要求をした。しかし、誠意ある措置がないため4月12日、常呂川への汚濁水排出の即時停止と損害賠償要求に対する誠意ある回答を求めて漁民大会を組合員他250名の参加を得て開催し、大会終了後ただちに北見市に向かい、関係工場に対し、その善処を求めた。(常呂漁協40年誌)

この日は、午前9時半からプラカード、大漁旗を掲げて町内をデモ行進し、10時から中央公民館で「常呂川汚染被害補償貫徹漁民大会」を開催…この大会で、漁民は被害賠償要求額33億円に固執するものではなく…常呂川に北見パルプ工場の廃液を流すことを即時停止…北見市内の工場廃液による常呂川「沿岸漁民の被害補償について4月末までに工場側から誠意ある回答を要求することを決議、大会参加者の内約180人が貸し切りバス2台と廃液を止めるための土俵百俵を7台の小型トラックに積み込み北見市内に向かいました…市長に決議文を手渡し、さらに市中をデモ行進して北見パルプ工場を訪れ…工場長から「現在、貯留中の廃液は道路に散布することにしたので川には一滴も流さない。また6月中には、現在工事中の廃液の濃縮燃焼設備が完成するので、漁民には迷惑をかけない」との回答があり、同工場の廃液貯槽などを視察して帰町しました。(広報ところ)

この後、6月12日、常呂町長が北見市長、同市議会議長と上京し、北見パルプの親会社である本州製紙を訪れ、関係幹部と話しあった結果、本州製紙副社長・芝浦製糖・北見合理化でん粉・北見市の4者会談で補償案をまとめ、網走支庁を通じて漁民側に提示。(常呂町百年史)

本組合(常呂漁協)の常呂川に対する被害補償要求に対し、問題を重視した網走支庁長が調停に入り、関係工場との数度にわたる交渉の結果、賠償額は支庁長に一任することで合意した。支庁長から出された調停案は産業振興施設に対して2千万円を常呂町に支出するもので、対策委員会、実行委員会に諮り、金額的には不満であるものの、調停案の受諾を承認、8月24日調停した。(常呂漁協40年誌)

*デモと大会のようすばかりではなく、当時の市街や役場前の雰囲気分かります



下は、現在の中央児童公園
中央の木造の商店は、長栄堂
菓子舗、現在の田中電器



左の2階建ては
常呂郵便局

*下の写真ではテレビカメラの取材をしているので、大きなニュースだったことが
分かります



右の建物は
常呂町役場

